

シーン別  
画像診断の  
いま

Scene  
Vol. 6

# 11. 死後画像診断力のある 死因究明医養成プラン

兵頭 秀樹 / 渡邊 智 / 井上 裕匡 / 松本 博志\*

札幌医科大学医学部法医学講座 (\*現・大阪大学医学部法医学教室)

「死後画像診断力のある死因究明医養成プラン」は、文部科学省の2012(平成24)年度大学改革推進事業の採択を受け、死後画像診断のスキルアップを図るとともに死因究明医を養成するプログラムとして、同年8月に札幌医科大学で開始した事業である。これは、同年6月の死因究明2法の可決成立を受け、内閣府で検討されている死因究明制度のあり方、および文部科学省で進められている「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」プログラムを融合させた内容であり、大学教育の一環として取り組んでいる。

本事業は、死後画像診断にのみ特化したものではない。プログラムには、体表、

解剖、病理、そのほかの検査を含む死因究明医に必要とされる項目が盛り込まれており、死因判定を行える医療人としての資質向上をめざしている。医科学生に門戸を開くことで、医療人としての人格形成の早い時期から本領域への興味・関心を促し、すでに社会に出ている医師にとっても、患者の死という医療人として避けては通れない課題に対して、専門家としてのアプローチの仕方を履修できる教材が用意されている。本取り組みは、札幌医科大学における医学教育の質の向上を図り、かつ本学の建学の精神である「先取の精神と自由闊達な気風を旨とする創造性に富む人間性豊かな医療人を養成する」目的にかなうものとなっている。

## プログラムの概要

プログラムには、医学部生を対象とした大学院教育を学べる「MD-PhDコース」と、附属病院の初期臨床研修医などを対象にした「初期臨床研修医コース」の2コースがある。教材としては、死後画像1500件以上の過去データベースから厳選された病院死亡・病院外死亡事例が用意されており、死後画像診断を基にした客観的データの抽出と、その評価が行えるようになっている。また、対応する体表・解剖・病理所見が画像で提示されており、学習者が実事例を基に総合的に死因判定できる能力を養えることを目標としている。

### 1. プラン概要 (図1)

先行する教育GP(死亡時画像診断)教材、ならびに本養成プランの死後画像、体表・解剖・病理所見を履修でき、死因究明に貢献できる医師の育成をめざしたプラン設計となっている。

### 2. 履修項目とその詳細 (表1)

テーマが計画されている死因究明画像セミナー(①、毎月1回)、剖検検討会(⑤、CPC:毎月1回)に加えて検案事例を含めた死因究明事例検討会(③、毎週1回)によって、履修の過程で実際の現場に近い経験ができるように計画されている。死因究明先端セミナー(②、年2回)では、実地で得られない社会的動向や研究に関して聴講することができ、

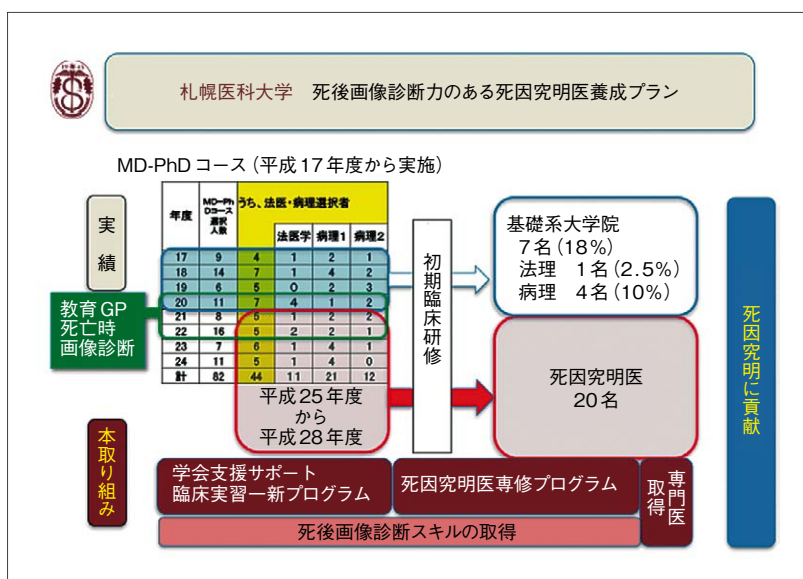


図1 プラン概要